



一ヶ月というのはすぐに過ぎ去ってしまって、毎月金策に追われている。「社長、今 金策」というマンガを書きたいくらいだ。相変わらず公園の設計できゅうきゅうとしている。スターばかりでは芝居にならないのと同じように人の住むところも心がずっと抜けるぽーとした空間が必要なのだが、とこも、みんな、スターを目指して計画を進めようとしている。どこもみんな、町おこし、村おこしをやるようとしている。軒並み並んできゅうきゅうと詰まった幕の内弁当みたいな場所でどこもが水際だったスターになって一人勝ちする事は無理だし、いけないことなのだ。息の詰まる人が心地よく住めなくなる場所が増えるだけな

のだ。たまに自宅の近くの公園に行くが、ここには大きな公園があり、たくさん人が集まって、季節毎ににぎわっているのだけれども、その裏の、酒屋の角をちょっと行った所にある公園が実に良い。ただ長方形で、周囲に桜が数本あるだけなのだけれども、春から秋まで一面の草の原になる。ふくらはぎの半分ほども隠れる細かい草が一面に茂って、園路などという姑息な物はない、桜の時は、一面の草原を見事な桜が縁取っている。子供が走ると足が見えずに船に乗っているようだし、犬は頭と尻尾が走ってゆく。いつも見事だと思う。誰が考えたか知らないが、大きな目で広く地域と人を見て町を作って来たことを感じさせて、心地よい。そんなもの考えるのが私の仕事なのだが、そういうものを考えてもえらい人たちを説得するほどの力に欠ける。それでも地道にしつこくやるのだが、なかなかうまくいかない場合が多い。そんなことを繰り返していくとどうしても表現力を鍛えなければならなくなってくる。スポーツ選手になるためには体力が必要なように、考えたことを実行するには、誰にでもわかりやすい明確な、明らかな、あたたかみのある広い範囲の表現力が必要なのだ。今まではその機能は分化し、おのおの別の専門家がやっていた。しかし、これからは違ってくるのではないが、コンピューターによって、多岐の作業が可能になればなおさら人に求められるのは、バランスのとれた、人の、生きる意欲であるだろう。ただ、そう思うときなんとなく絶望感を覚える。同じ顔をした若い人たちを見ていると、何の末期か知らないがそんな気がしてくる。この混沌はいつまで続くのかと、そう思いながら飲み屋の片隅でやたらと「キヤーキヤー」いうばかりの女や、のっぺり顔で「ギヤーギヤー」と騒ぐ男たちを肌寒い思いで見ると。その中を泳ぐようにきっちりと働いている東南アジアの青年たちがこのごろキリッと美しく見えてしょうがない。以上今月のぐちでした。GNOMES

早く今年のネパールの計画を立てなくては、さてどこ行こう。焦っています。ゆっくり出来てヒマラヤも見て、歩いて、飲めるコースを考えています。日程は12/19~1/2  
<http://www.interq.or.jp/japan/gnomes/gnomes1>  
TEL/FAX 03-5600-0195 高村 哲 GnomesJpn@aol.com